

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。
 小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Division』『IB Division』を設けています。
 Primary Division (幼稚部および1～5年) = 幼稚部および小学校1～5年
 Secondary Division (6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年
 IB Division (6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

2025年度 玉川学園学校評価（自己評価結果）

評価規準	2025年度の課題・重点施策	2025年度自己評価	
		2025年度の課題・重点施策に対する達成状況	2026年度の課題と改善方法（2026年度の課題・重点施策）
<p>目的 (01) : 重要な使命の共有 Purpose (01) : Sharing an important mission</p> <p>規準(0101) : 目的 Standard(0101) : Purpose</p> <p>0101-01 学校の統括組織および学校リーダーは、全人教育、学習指導要領とIBの理念と使命、IDEALSに沿って、学習目的を明確化すること。</p> <p>0101-02 学校の教育的リーダーシップチームは、生徒が能動的で思いやりのある、生涯にわたり学び続ける学習者になることを奨励する教育的アプローチを採用すること。</p> <p>0101-03 学校のコミュニティーは、「12の教育信条」「IBの学習者像」のすべての人物像を体現する国際的な人材を育成すること。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。(0101-01) ● 中長期目標に基づき、K-12教職員が参加する研修、及び、研究会等を実施し、教職員の全人教育の理解度を深め、指導力の向上を図る。(0101-01,02) ● 12の教育信条の周知徹底、「玉川っ子」の概念の共有など、各ディビジョンが一体となって生徒指導に当たれるようにサポートする。外国籍教員や本校に在籍経験のない教員等、多様な背景を持つ教員間で建学の理念の共有を図る。(0101-01,02,03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各ディビジョンと密に連携し、全人教育の理念に基づいた一貫教育の推進に努めた。定例の学園部長会やK-12協議会に加え、部長連絡会を年15回開催。部長間の情報共有を強化し、円滑な教育活動を展開した。(0101-01) ● 新採用教員に対し「全人教育論研修」および「自校教育研修」を実施した。あわせて中堅者・管理職研修、鹿児島研修、宿泊合宿参加研修等を行い、理念の共有を図った。(0101-01,02) ● 外国籍教員への啓蒙については、全体研修ではなく、各ディビジョン内での研修実施に留まった。(0101-01,02,03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 に基づく中長期目標に従い、創立100周年を見据え、全人教育の理念による教育活動の展開を徹底する。(0101-01) ● K-12教職員対象の研修や研究会を計画的に実施。全人教育への理解を一層深め、指導力の向上を図る。(0101-01,02) ● K-12が一体となって生徒指導にあたるようサポートを強化する。特に外国籍教員や多様な背景を持つ教員間で「目指すべき生徒像」を共有し、指導にあたる。(0101-01,02,03)
	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● より主体的・能動的に学びを得られるような遊びの環境設定、活動のねらい、各行事の在り方などについて部内研修等を継続する。また、年長児アクティブラーニング（5歳児合宿/うんどう会/こども会）のねらい、活動プロセスの改善を図る。(0101-02) ● 玉川学園高等部のスクールポリシーを幼稚部においても共有し、それに向けて幼児期に大切にしたい事柄について話し合う場を設ける。(0101-03) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自発的な遊びの環境設定や保育の進め方についてなど、十分な部内研修を実施することができなかったため、持続可能な部内研修計画を新たに検討していく。年長児による3つの行事（おとまり会・運動会・こども会）を通して、アクティブラーニングのねらいやプロセスをブラッシュアップすることができた。(0101-02) ● スクールポリシーについて十分な共有と討議の時間を持つことができなかった。次年度は、内容が広範囲にわたるスクールポリシーと幼児教育との連続性を意識するよりも、「12の教育信条」と教育活動との整合性や、活動の質的向上を目指すことに重点を置いていく。(0101-03) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部内研修会については年度内に時期を含めた計画を立て、新年度1学期に開催できるよう準備を進めていく。コロナ禍後の年間行事計画の見直しをおこない適宜更新していく。また、幼稚園内での異年齢交流にも着目し、「きれいな心」を育む活動場面として重点を置いていきたい。(0101-02) ● 幼稚部における教育活動と「12の教育信条」との整合性について、各教員が自身の考えをまとめ、互いに共有できるような場を設けていく。例としてGoogleフォームでの意見集約や共有Driveを利用した閲覧など。(0101-03)
	<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を継続的に展開することを徹底する。(0101-01) ● 中長期目標に基づき、自校教育カリキュラム作成に向けて全人教育理解のための計画を見直し、ブラッシュアップを図る。(0101-02) 	<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自校教育の一環として、記念礼拝、小原記念館見学、学内オリエンテーリングを実施し、創立者の人柄、玉川の歴史等を学ぶ機会を多くし、玉川教育の充実を図ることができた。(0101-02) ● 始業の会、終業の会、朝会、礼拝等で日頃より玉川のモットーを明示し、「きれいな心」「よい頭」「つよい体」の玉川っ子像を目指し、児童と教師、保護者が三位一体となって指導に当たった。(0101-01) 	<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を継続的に展開することを徹底する。(0101-01) ● 中長期目標に基づき、自校教育カリキュラム作成に向けて全人教育の実践計画をブラッシュアップすると共に、自然の尊重、労作教育の充実を図る。(0101-03)
	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● すべての教育活動において、全人教育の理念に沿った教育活動ができていくか確認しながら進める。(0101-01) ● 生涯楽しみながら学び続ける学習者になるようなアプローチができるカリキュラムを、教科ごと検討する。(0101-02) 	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 玉川学園のスクールポリシーを再確認し、全人教育の理念に沿った教育活動ができていくか意識しながら進めることができた。(0101-01) ● 「好奇心を持ちながら学び続ける」姿勢を養うため、従来の知識伝達型だけでなく、生徒の主体性を引き出すカリキュラムへのアップデートを各教科で検討できた。(0101-02) 	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教科指導や各行事などにおいて、「12の教育信条」の中から重点的に意識する項目を選定し、その項目についての具体的な「行動目標」を検討する。(0101-01,03) ● 学習のプロセスにおいて、生徒自身がその行動目標に対して「どのように能動的に取り組めたか」を自己評価やリフレクションする仕組みを模索する。(0101-02)

<p>目的 (01) : 重要な使命の共有 Purpose (01) : Sharing an important mission</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Incorporate Zenjin Education training into Staff Workshops; using both internal and external workshop leaders. Incorporate Zenjin philosophy into the induction process. (0101-02,03) <p>教員研修に全人教育研修を取り入れる。また、新採用教員のオリエンテーションにも全人教育についての研修を導入する。(0101-02,03)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To set up a Zenjin Library which is accessible to non-Japanese speakers. (0101-02,03) <p>外国籍の教員が利用できる英語版「全人教育ライブラリー」を開設する。(0101-02,03)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We have not been able to have our own Zenjin Training this year but we have been in touch with Mr Obara who has agreed to give the training in the 2026-2027 academic year. We have made a start on including Zenjin Education into the induction process. (0101-02,03) <p>本年度は独自の全人教育研修を実施できなかったが、次年度学園長に研修を実施いただくことで合意を得た。また、新採用教員の導入研修において全人教育を組み込む取り組みを開始した。(0101-02, 03)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We have made connections with the Tamagawa Research Institute and asked if we can order books for research purposes. (0101-02,03) <p>玉川大学学術研究所と連携を図り、研究目的での書籍発注の可否について確認を行うことができた。(0101-02, 03)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We will create a mission and vision for our division in terms. We concentrate on sharing them within with parents and students, and keeping their profile high throughout the school year. We will create a newsletter so highlight our successes in meeting them. (0101-02,03) <p>IB Division におけるミッションおよびビジョンを学期ごとに策定する。これらを保護者や児童生徒と共有することに注力し、年間を通じてその認知度を高く維持する。また、ニュースレターを作成し、ミッションとビジョンの達成に向けた成果を広く発信していく。(0101-02,03)</p>
	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期計画を部署内教職員間で共有し、創立 100 周年を見据え全人教育の理念をもとに教育支援活動を展開することを徹底する。(0101-01) ● 部署内の 2 つのセンター (ES センター・マルチメディアリソースセンター) は中長期目標に基づき、学習者の視点に立った個別最適な学びの実現に向け、指導の個別化や学習の個性化に重点を置いた教育プログラムを検討する。(0101-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 創立 100 周年を見据え全人教育の理念のもと、2 つのセンター (ES センター・マルチメディアリソースセンター)が実施している教育支援活動を、学園教学部や各ディビジョンと連携を図りながら展開した。(0101-01) ● ES センターでは放課後の SH の運営において、学生メンターによる児童・生徒個々に応じた学習サポートのあり方を検討し学習者の自律を促す支援を展開した。また、マルチメディアリソースセンターでは探究支援事業において、10 年次からの入学者に対する授業「自由研究」の定期的な学習サポートプログラムを実施した。(0101-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期計画に従って、創立 100 周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育支援活動を継続的に展開することを徹底する。(0101-01) ● 部署内の 2 つのセンター (ES センター・マルチメディアリソースセンター)が、次期学習指導要領に沿って学習目的を明確にし、教育支援体制を整える。(0101-01,02)
	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標に向け、K-16 国際教育センター教職員が一体となり、実現に向けた取り組みの検討を継続する。(0101-01) ● 国際教育センターとして、K-16 研修・留学の派遣受入に関する企画立案計画の確認を随時行う。(0101-01) ● K-12 各ディビジョンの国際担当と各研修・留学に関して計画準備等の事前確認とサポートをし、安心安全な研修・留学を行う。(0101-02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国際教育センター開催の定例会 (月 1 回) に参加し、K-16 国際教育に関する情報の即時共有を図るとともに、教職員が一体となって各プログラムの円滑な運営に寄与した。(0101-01) ● 研修・留学の派遣および受入に関する企画立案計画を随時精査・確認し、各工程の進捗管理を行った。(0101-01) ● 各ディビジョンの担当者と緊密な情報共有に努め、交換研修や留学、滞在生徒の管理を適切に遂行することで、K-12 国際教育プログラムをサポートした。(0101-02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標達成に向け、K-16 国際教育センター教職員が一丸となり、国際交流プログラムの戦略的かつ計画的な実施に取り組む。(0101-01) ● K-12 各ディビジョンの国際担当者と密に連携し、研修・留学の準備段階からきめ細かなサポートを行うことで、安心・安全な海外派遣および受入体制を構築する。(0101-02)
	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教科横断的な探究学習の機会ができないか各教科検討する。(0101-01) ● 多様な価値観や国際的な視野を育むようなカリキュラムを検討する。(0101-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教科横断的なカリキュラムについて、各教科で検討を深めることができた。(0101-01) ● 多様な価値観や国際的な視野の育成について検討の機会をもち、各活動での実践を重視する方針を確認した。(0101-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の主体的・対話的で深い学びを促す指導法を確立し、生涯にわたって学び続ける意欲を育むための教育環境の構築に向けた検討を行う。(0101-02) ● 12 の教育信条を軸に、多様な価値観を尊重し国際社会で貢献できる人材を育てる実践活動を検討する。(0101-03)
	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念のもとに、園児児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を推進する場面を増やす企画を立案する。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、園児・児童・生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校づくりを家庭と共に行い、事案が起きた場合の対処対応の研修を行う。(0101-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各ディビジョンにおいて、児童生徒・保護者・教員による行事活動を積極的に進めることができた。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、安全教育教室・いじめ対策防止委員会の開催や、学級・学年単位での指導に加え、学校カウンセラーによるディビジョンでの教員研修を進め、事案発生時の早期対応といじめの起こらない学校づくりを進めることができた。(0101-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念のもとに、児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を推進する場面を増やす企画を立案する。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、園児・児童・生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校づくりを家庭と共に行い、事案が起きた場合の対処対応の研修を行う。(0101-01)

評価規準	2025 年度の課題・重点施策	2025 年度自己評価	
		2025 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2026 年度の課題と改善方法（2026 年度の課題・重点施策）
<p>環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources</p> <p>規準(0201)：リーダーシップおよび統括体制 Standard(0201)：Leadership and governance</p> <p>0201-01 学校は、プログラムの実践と現在行われている教育の改善をサポートするため、学習指導要領およびすべての IB 規則、規定、およびガイドラインを定期的に見直し、遵守すること。</p> <p>0201-02 学校の教育的リーダーシップチームには、IB プログラムの実践を成功に導く権限を与えられた IB の訓練を受けたプログラムコーディネーターを含めること。【IB Division のみ】</p> <p>0201-03 学校は、幅広くバランスがとれ、関連性の高いカリキュラムを提供し、地域社会の変化するニーズに対応する学習と指導の時間を編成すること。</p> <p>0201-04 学校は、K-12 教育課程、IB プログラムの運営と持続可能性を向上させるためのシステムとプロセスを運用し、見直しを行うこと。</p> <p>0201-05 学校は、K-12 教育課程と IB プログラムを維持し、さらに発展させるため資金確保とリソースの分配を行うこと。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次期学習指導要領改定を見据え、玉川学園 K-12 教育課程の更新計画を進め、魅力あるカリキュラムの構築を図る。(0201-01) ●K-12 の収支の安定を目指し、具体的な改革プランを継続検討する。K-12 全体のバランスをとりながら、予算配分、施設設備計画を立てる。(0201-04,05) ●BYOD、オンライン授業等の環境整備、教務校務等の ICT サポートなど、K-12 の教育活動が円滑に進められるように、法人部門と連携してサポート体制を整える。(0201-05) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●K-12 教育課程に則り、教育活動を推進することができた。次期学習指導要領改訂を見据え、本学のカリキュラムの見直しを継続する。(0201-01) ●各ディビジョンで、魅力ある教育プログラムについて検討を進め、管理職研修、及び、K-12 全体研修の場で共有した。創立 100 周年までの実施に向けて準備を進めた。(0201-04,05) ●各ディビジョン間で調整を行い、必要な教育機器の導入や、ICT 環境整備に努めた。収支状況を共有し、予算計画、施設設備計画を進めることができた。(0201-05) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次期学習指導要領の改訂を見据え、玉川学園 K-12 教育課程の更新計画を推進し、魅力あるカリキュラムの構築を図る。(0201-01) ●K-12 の収支安定を目指し、具体的な改革プランの検討を継続する。(0201-04,05) ●K-12 全体のバランスを考慮し、無駄を排しながらも、必要な活動には十分な予算を配分できるよう、施設設備計画を策定する。(0201-04,05)
	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新を継続する。また、K-16 連携活動（音楽劇鑑賞会/カブトムシ勉強会/農作物収穫）を継続しつつ、新たな活動の可能性を探る。(0201-01) ●英語カリキュラム、保育カリキュラム、ポートフォリオ等の作成・更新を継続する。また、Primary Division(1-5)との授業連携を視野に入れ、幼稚部教員が授業見学を行うなどして教員同士の交流を図る。(0202-05,0203-03) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学年・各期（年間 8 期）の目標と計画、振り返りと記録のサイクルは日常的に各担任が取り組んでいるが、学年間の保育内容を共有する場が不足しがちであった。K-16 連携活動は今年度も充実しており、音楽劇鑑賞会（全学年）、茶摘み体験（年中）、カブトムシ勉強会（年長）などの活動を継続した。(0201-01) ●英語については 2024 年度より新カリキュラムを開始している。幼稚部「教育課程 2020」についても、コロナ禍後の生活様式や行事運営の変更に合わせて、さらなる更新を加えていきたい。Primary Division（1-5）との連携を見据えての授業見学等は実施できなかった。(0202-05,0203-03) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新を継続する。また、K-16 連携活動（音楽劇鑑賞会/お茶摘み体験/カブトムシ勉強会）を継続しつつ、新たな活動の可能性を探る。(0201-01) ●幼稚部「教育課程」の改訂に向けて、改訂年度の決定と更新作業の計画・役割分担等をおこなう。また、Primary Division(1-5)との授業連携を視野に入れ、幼稚部教員が授業見学を行うなどして教員同士の交流を図る。(0202-05,0203-03)
	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教科部会毎で学習指導要領に則った指導がなされているか、定期的に見直しを図り、感染症の拡大防止のためにオンライン授業への切り替えをスムーズに実践し、教職員が感染した場合などを想定し、今後も迅速対応できる体制を維持する。(0201-01) ●教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の一層の充実を図り、Bilingual プログラムの推進を継続化する。(0201-02) ●Secondary Division および IB Division との英語研修会を計画的に実施し、相互に学習内容を把握し、連携を図りながら英語教育を充実させていく。(0201-04) ●SH の利用率の向上を目指し、個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。(0202-01) ●日課の検討を含め、BSH の時間の運用、活用を再度見直し、JP クラスの新たな魅力ある学習の展開及び教育効果を上げる有効的な利用を探っていく。(0202-02) ●次年度も新任教員が多いことから、教務主任を中心に新任教員研修の充実を図っていく。(0203-01) ●日本人、外国籍教員ともに授業研究を実施し、授業力向上を今後も継続的に図っていく。(0203-01) ●各会議資料および業務連絡の英文化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りをする。今後も継続的に宿泊行事、入試業務等にも BLES 専任教諭を中心に外国籍教員を積極的に参加させ、チームで指導に当たる体制を作る。(0203-03) 	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度はインフルエンザの流行により、年間を通じて多くの学級閉鎖を余儀なくされたが、迅速にオンライン授業へと切り替えることで、教育活動を停滞させることなく、児童一人ひとりの学びを保障させることができた。(0201-01) ●児童の負担を軽減するため、フォニックスの指導開始時期を柔軟に再設定し、さらに、カリキュラムの適正化を図ることで、「英語への親しみ」を損なうことなく、基礎を確実に定着させる指導体制へと改善した。(0201-01) ●IB Division との連携で WIDA テストを導入する等の成果を得た一方で、Secondary Division との接続強化が今後の課題である。(0201-04) ●Primary の教員による積極的な指導により SH での個別指導が充実し、児童の主体的な取り組みに結びついた。(0202-01) ●日課見直しと新教育課程の確立は、教員研修での検討段階に留まっており、課題改善が継続案件となり、次年度はこれまでの検討内容を具現化し、早期の体制確立を目指す。(0202-02) ●外国人・日本人教員双方が、授業点検や教科部会での研究活動を継続的に実施したことで、教員の専門性が高まり、より効果的な授業実践へと繋げることができた。(0203-01) ●外国人・日本人教員の協力体制が一段と強固になり、宿泊行事や入試業務のみならず、日常生活指導や保護者対応においても緊密に連携して取り組む体制を確立することができた。(0203-03) 	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●BLES プログラムの開始から 10 年という節目を迎え、これまでの問題点や課題を踏まえて教育課程・日課を見直し、2029 年度の実施に向けて取り組む。(0201-01) ●幼稚部からの内部進学者の進路において、幼小連携を図りながら、児童一人ひとりにふさわしい学習環境を整えるための方策を模索していく。(0401-01) ●Secondary Division および IB Division との英語研修会を計画的に実施し、相互に学習内容を把握し、連携を図りながら英語教育を充実させていく。(0201-04) ●SH の利用率の向上を目指し、個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。(0202-01) ●次年度も新任教員が多いことから、教務主任を中心に新任教員研修の充実を図っていく。(0203-01) ●日本人、外国人教員ともに授業研究を実施し、授業力向上を今後も継続的に図っていく。(0203-01) ●各会議資料および業務連絡の英文化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りをする。今後も継続的に宿泊行事、入試業務、生活指導、保護者対応等にも BLES 専任教諭を中心に外国籍教員を積極的に参加させ、チームで指導に当たる体制を作る。(0203-03)
	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各教科、2 年間かけて K-12 教育課程の改定を行う。(0201-01,04) ●社会変化に対応するカリキュラムの検討を行う。(0201-03) ●引き継ぎ、ICT 活用授業及び AI 利活用について各教科検討を続ける。(0203-02,03) 	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各教科、K-12 教育課程の改定に向けて検討を進めた。(0201-01,04) ●基礎学力の定着を図りつつ、社会変化に対応した「思考力」を深化させるカリキュラムの方向性を確認した。(0201-03) ●ICT および AI を効果的に利活用した授業実践を推進し、教員間での実践報告会を通じて成功事例や課題の共有を図った。(0203-02,03) 	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次期学習指導要領の改訂に向けた情報収集とともに、本学の中教育課程におけるカリキュラム再編について検討を行う。(0201-01,04) ●ICT・AI 利活用に関する外部専門家を招いた研修会を実施し、教員の指導力向上と教育活動への効果的な導入を推進する。(0203-02,03) ●町田市や企業等との産官学連携を強化し、実社会の課題解決を軸とした探究的なカリキュラムを模索する。(0201-03)

<p>規準(0202)：生徒のサポート Standard(0202)：Student support</p> <p>0202-01 学校は、プログラムの実施に関わる人材、自然資源、設備、およびバーチャル環境におけるリソースを提供すること。</p> <p>0202-02 学校は、生徒への適切な学習サポートの必要性を確認し提供すること。</p> <p>0202-03 学校は、生徒と教師の社会的および心身の健全性、感情的、肉体的な幸福を促進すること。</p> <p>0202-04 学校は、生徒がプログラムで成功し、次の段階についての計画を手助けするキャリアガイダンスとサポートを提供すること。</p> <p>0202-05 学校は、プログラムの実施を強化する知恵と専門知識を得るために、より広いコミュニティーとの関係を構築すること。【K-16 連携等】</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Widen the opportunity for cultural exchanges with International Schools in Japan through the MYP and DP and Heads Networks. Look for opportunities of online education exchange opportunities with schools around the world, including schools that our staff used to work at. Raise the profile of the new Mandarin Ab initio course through Jiyukenkyu, the Personal Project and Community Project. (0202-05,0203-02,03) <p>MYP・DP コーディネーターおよび IB 校校長ネットワークを通じて、国内のインターナショナルスクールとの交流の機会を広げる。また、教員が以前勤務していた学校を含め、世界中の学校とオンラインで教育に関する交流ができる機会を模索する。自由研究、パーソナルプロジェクト、コミュニティプロジェクトを通じて、新しい中国語初級 (Ab initio) コースの認知度を高める。(0202-05,0203-02,03)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We have made good progress with exchanges in Japan. This has been done through our Model United Nations (MUN). We have held MUN conferences here at Tamagawa and in the Tokyo and Kansai areas. We have made links with the Japan - Scotland Association in order to build links, such as through a summer programme. Our Mandarin Jiyukenkyu has highlighted cultural links between Japan and China. (0202-05,0203-02,03) <p>国内での交流活動において着実な進展があった。これは主に模擬国連 (MUN) を通じて実施したものである。学内だけでなく、東京および関西圏において開催された模擬国連会議にも参加した。また、日本スコットランド協会との連携を開始し、サマープログラム等を通じた関係構築を図っている。自由研究の中国語においては日本と中国の文化的なつながりを強調する取り組みを行った。(0202-05,0203-02,03)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We will build social and mental wellbeing into IB Core, Homeroom and Assemblies. (0202-03) <p>IB Core、ホームルーム、およびアセンブリー (全校集会) の中に、社会的・精神的なウェルビーイング (福祉・健康) の要素を組み込む。(0202-03)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We will relaunch the Teacher Mentor Scheme and include a section on supporting students with their mental health. (0202-03) <p>ティーチャー・メンター・制度を再始動させ、生徒のメンタルヘルス支援に関する項目を新たに盛り込む。(0202-03)</p>
<p>規準(0203)：教師のサポート Standard(0203)：Teacher support</p> <p>0203-01 学校は、教師が最新のリソースを使用し、プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること。</p> <p>0203-02 学校は、学校リーダーシップメンバーと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること。</p> <p>0203-03 学校は、プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること。</p>	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1～5 年生の ICT 導入は、ICT の利活用に関する基本計画に沿って ICT 教育推進委員会等で引き続き検討する。また、K-12 全体の ICT 活用教育マスタープランの完成を目指す。(0201-05,0203-03) ● 読書教育をキーワードに玉川大学との K-16 教育連携を図り、園児・児童・生徒の読書活動を活発にする企画を提供する。(0202-02) ● ラーニング・コモンズ内で実施する学習イベントを教員と共有する機会を増やすことで、ES センターとディビジョンが協働し、効果的に運営できるようプログラムを構築する。(0203-03) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全ディビジョンの協力により、ICT 活用教育マスタープランを取りまとめることができた。現時点での 1～5 年生の ICT 活用状況を確認し、今後の活用内容を引き続き検討する。(0201-05,0203-03) ● K-16 連携企画は今まで 6～8 年生で実施していたものを、4・5 年生も新たに加え、玉川大学生による本の紹介企画を POP 編、動画編、ブックトーク編として実施し、児童・生徒の読書意欲の向上に繋げることができた。(0202-02) ● 委託業者が実施する学習イベントを進路相談室担当教員に案内したことがきっかけとなり、情報共有や意見交換の場を持つことができた。来年度から大学進学準備に向けた講座として、小論文対策講座を開講することが決まった。(0203-03) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1～5 年生対象の ICT 利活用教育について基本計画を見直し、各教科での授業利用の促進と環境整備等、ICT 教育推進委員会と連携してサポート体制を整える。(0201-05,0203-03) ● ブラネタリウム機能を備えた施設であるスターレックドームについて、新たな施設価値を創出する運用方法を各ディビジョンと検討する。(0202-01)
<p>規準(0203)：教師のサポート Standard(0203)：Teacher support</p> <p>0203-01 学校は、教師が最新のリソースを使用し、プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること。</p> <p>0203-02 学校は、学校リーダーシップメンバーと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること。</p> <p>0203-03 学校は、プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること。</p>	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-16 海外交流校の派遣受入の交流プログラムにおいて、既存プログラムと新規プログラムを安全安心に運用する企画立案計画の情報交換と共有を随時行う。(0203-01,02,03) ● K-12 交流プログラム受入に、安定したホストファミリーおよび学内ホストの確保に向けた検討を継続する。(0203-02) ● 受け入れのための学内施設の住環境の改善や、学外宿泊施設の利用など、検討を継続する。(0203-02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 数年ぶりとなるブラジル研修および台湾稲江校研修を成功裏に実施できた。一方で、ハーカー校訪問および模擬国連会議研修 (アメリカ) については、諸条件を鑑み実施を見送った。(0203-01,02,03) ● ホストファミリーおよび学内ホストの募集について、積極的な呼びかけを展開し、受け入れに必要な家庭・ホスト数を十分に確保することができた。(0203-02) ● 現状の施設を利用することで対応した。(0203-02) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 国際交流プログラムにおいて、既存プログラムの質的向上と新規プログラムの開拓を両立させ、安全安心な運用に向けた企画立案・情報共有を随時行う (0203-01,02,03) ● K-12 交流プログラムの受入を安定的に継続するため、ホストファミリーおよび学内ホストの確保に向けた協力体制の維持・拡大を検討する。(0203-02) ● 受入環境のさらなる充実を目指し、学内施設の住環境改善や学外宿泊施設の効果的な活用について、継続して検討・実施する。(0203-02)
<p>規準(0203)：教師のサポート Standard(0203)：Teacher support</p> <p>0203-01 学校は、教師が最新のリソースを使用し、プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること。</p> <p>0203-02 学校は、学校リーダーシップメンバーと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること。</p> <p>0203-03 学校は、プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること。</p>	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Google チャットのスペースや Siems などを利用し、東京私立中学高等学校協会の研修や私学協会の研修などを広報し、最低 1 回は研修に参加するよう推進する。また、研修内容を共有する場を設ける。(0203-01,02) ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築できたが、今後も改善点などを探り、一層の充実を図る。(0202-05,0203-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Google チャット等の活用により研修情報の周知を円滑化し、全教員が年 1 回以上の外部研修参加を達成した。また、研修内容を共有する仕組みを構築したことで、組織全体の指導力向上に繋げることができた。(0203-01,02) ● 各ディビジョンでの運用事例を共有し、教育ネットワークを効果的に構築できた。利便性の向上により家庭との連携も深まった一方で、今後は利用者の意見を反映し、さらなる機能の充実と改善を推進する。(0202-05,0203-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒・教員の心身の健全性を維持しつつ学びを深めるため、ICT 環境と学習支援体制の両面から検討を行う。(0202-01, 02, 03) ● K-16 連携等の外部交流を促進し、生徒自身のキャリア形成に結びつく学びの機会を模索する。(0202-04, 05)
<p>規準(0203)：教師のサポート Standard(0203)：Teacher support</p> <p>0203-01 学校は、教師が最新のリソースを使用し、プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること。</p> <p>0203-02 学校は、学校リーダーシップメンバーと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること。</p> <p>0203-03 学校は、プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること。</p>	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童・生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと児童・生徒、教員、家庭との情報を共有しながら、安心な体制と環境の提供を継続する。(0202-03) ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する。(0203-03) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学級単位でのスクールカウンセラーによるワークショップを実施するなど、児童・生徒の心のケアをサポートするために、教職員教員と家庭間での情報を共有しながら、安心・安全な環境の維持に努めた。(0202-03) ● 保健センター健康院からの教職員の健康情報やストレスチェック結果等の各情報をもとに、カウンセリングや管理職による個別面談を含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続できた。(0203-03) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童・生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと児童・生徒、教員、家庭との情報を共有しながら、安心な体制と環境の提供を継続する。(0202-03) ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する。(0203-03)

<p>環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources</p>	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経営基盤の安定のために人事部として第一に取り組みなければならないのは、人材の確保と人件費比率の目標値達成である。しかし、昨今の社会情勢から人材の獲得競争や給与のベースアップなど課題は増えており、今後の方針について学園教学部や経理部など関係各部署との調整が必要である。(0201-05,0202-01) ● 引き続き、安全衛生委員会と連携し教職員の柔軟な働き方について検討する。特に、健康障害の防止を重点に健全な職場環境の整備に取り組む。(0202-03,0203-03) <p>引き続き、階層別研修とテーマ別研修を計画・実施していく。日々の業務を抱えながらの研修はどうしても二の次になりやすく参加率向上が課題である。プログラム内容を充実させたりオンラインでの受講機会を増やしたり、研修に参加するように環境を整備する。(0203-02)</p>	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人件費比率の目標値（50%～55%）を念頭に人材確保に努めている。2018年より管理職候補となり得る中途採用を強化してきたところ、近年、若年層の退職が増える傾向にあることから、当面は新卒採用の人数を増やし、不足する年代を中途採用で補うよう方針を転換した。(0201-05,0202-01) ● 安全衛生委員会と連携した継続的な就労環境・職場環境の改善に取り組んだ。常任会からの諮問事項（①健康障害の防止②多様で柔軟な働き方の充実③労働災害の防止④公衆衛生に係る案件の周知）を基に、各種研修の実施や掲示板を利用した情報周知を図った。(0202-03,0203-03) ● 事務職員対象の階層別研修と教職員対象のテーマ別研修について、概ね予定どおり実施した。テーマ別研修では、創立100周年に向けた「全人教育研修」や、新たに40代以下を対象とした「ライフプランセミナー」を実施した。また、2012年に導入した「職員大学院進学プログラム」を今年度採用者（入学者）を最後に終了することとした。(0203-02) 	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き人件費比率の目標値達成を目指す。そのため、今後の事務組織のあり方と適正人員について併せて検討できるよう、人事部としての案を事務組織改正委員会の組上に載せる。(0202-01) ● 引き続き、安全衛生委員会と連携し教職員の柔軟な働き方について検討する。特に、健康障害の防止を重点に健全な職場環境の整備に取り組む。(0202-03,0203-03) ● 引き続き、階層別研修とテーマ別研修を計画・実施していく。特に、「職員大学院進学プログラム」に代わるプログラムの再構築を中心に階層別研修の見直しを図り、ますます高度化・複雑化する業務に対応できるよう構築する。(0203-02)
	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 収支改善に関して、収入面は主要な財源である納付金収入を確保するため園児・児童・生徒数の増加が欠かせず、出生率の低下が続く厳しい状況の中、定員充足を目指す方策の検討が必要。また、支出面では、物価上昇が続くことが予想されているが、支出に関しての調整（業務の合理化等による節減の啓蒙、予算調整、等）を引き続き検討したい。(0201-05) ● 令和6年度決算の収支分析結果を、引き続き学園部長会へ報告する他、実施が滞っている収支改善に向けた教職員構成についての調整を関係部署と行う。(0201-05) 	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 収入の主要財源となる納付金収入は、令和6年度において入学定員充足率は0.91倍、収容定員充足率は0.86倍といずれも未充足の状況が続いているが、生徒・児童・園児数は対前年度微増に伴い増加となった。しかしながら、物価が上昇傾向にあることから予算調整等での効果的な支出削減案の検討が困難であり、またインフラ整備に係る費用の計上により収支改善には至っていない。(0201-05) ● 令和6年度決算に係る収支分析を学園部長会で報告し、各学校種の収支状況と人件費に係る課題等を共有した。なお、収入に占める人件費の割合は対前年度で微減となっている。(0201-05) 	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、収入の主要財源である納付金の確保に向けた生徒等の定員充足を目指す方策の検討が必要である。合わせて、支出削減に係る方策として、予算調整の検討や節減の啓蒙を実施。また、各部署予算の編成の考え方について、再度周知する。(0201-05) ● 引き続き、令和7年度決算の収支分析結果を学園部長会に報告し、収支改善に関する課題について共有する。(0201-05)
	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 包括連携を結んでいる自治体との関係性を深め、児童・生徒が地位社会において学習できる自治体を1つ以上新たに提供する。(0201-03) ● Campus Master Planに基づき、自然資源を有効活用した施設設備の提供を図る。(0202-01) ● 引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修の中長期計画立案を行う。(0202-01) ● SDGsやSociety5.0に加えサーキュラーエコノミーを視野に入れたCampus Master Planの立案。(0202-01) 	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サング研究部が和歌山県串本町で活動を行う際に、包括連携を結んでいる古座川町へ生徒4名・引率3名が訪問し、役場関係者と交流を実施した。(0201-03) ● 昨年に引き続き、包括連携を結んでいる南さつま市へK-12の生徒23名が訪問し、地元の児童及び住民との交流を実施した。(0201-03) ● Tamagawa Mokurin Projectにより、間伐材をTamagawa Wood Seasoning Station (TWSS) の木材低温乾燥装置を利用して乾燥させて教材として活用。また、建設中のSports Center SANITASとStudent COMMONSの建材として利用予定(0202-01) ● 施設中長期計画（新築・改修・解体）の財政見直しによる実施予算の提出(0202-01) ● Student COMMONSはZEB Readyを取得した。(0202-01) 	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童・生徒が地域社会において学習できる自治体（包括連携含む）を1つ以上新たに提供する。(0201-03) ● Campus Master Planに基づき、自然資源を有効活用した施設設備の提供を図る。(0202-01) ● 引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修の中長期計画立案を行う。(0202-01) ● SDGsやSociety5.0に加えサーキュラーエコノミーを視野に入れたCampus Master Planの立案。(0202-01)
	<p>【管理運営部門（IR室）】</p>	<p>【管理運営部門（IR室）】</p>	<p>【管理運営部門（IR室）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部門・部署ごとに進められてきたIR活動やデータ活用が、必ずしも全学的に十分連動していない現状の課題を踏まえ、IR推進委員会の実働化を軸に、K-12分科会について計画・立案し、経営判断および教育の質保証に資する調査・分析を段階的に実施する。(0201-05) ● 研修の企画・実施やIRに関する情報共有等を通じて、組織全体のデータに基づくマネジメントの定着を目指す。(0201-05)

評価規準	2025 年度の課題・重点施策	2025 年度自己評価	
		2025 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2026 年度の課題と改善方法（2026 年度の課題・重点施策）
<p>文化 (03)：肯定的な学校文化の創造 Culture (03)：Creating positive school cultures</p> <p>規準(0301)：方針の実践を通じた文化 Standard(0301)：Culture through policy implementation</p> <p>0301-01 学校は、可能な限り多様な生徒が教育にアクセスできるようにすること。</p> <p>0301-02 学校は、すべての生徒が最大の可能性を発揮することをサポートする文化を創造するために、多様性を受け入れるインクルーシブな方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-03 学校は、学問の清廉性を保つために必要な学問的誠実性についての方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-04 学校は、複数の言語でさまざまな方法のコミュニケーションを行い、多様な文化の理解を育成するのに役立つ言語方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-05 学校は、生涯学習と継続的な成長を目指す学校文化の創造につながる評価方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-06 学校は、教育理念およびIBが定めた方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行い、それらが一貫性をもち、全人教育およびIBの理念を反映したものかを確認すること。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン入試、及びオンラインガイダンスを積極的に取り入れ、より玉川学園を受験しやすい環境作りを行う。また国内入試のあり方も見直し、より多くの受験生を確保できる方策を探る。(0301-01) ● K-12 全体でバイリンガルの環境作りを継続して行う。母語である日本語力の向上、及び日本文化体験プログラムの充実を図る。日本語サポートプログラムの実施。(0301-04) ● 園児・児童・生徒の満足度 UP、及び志願者増を目指し、玉川の強みを生かした新たなプログラムの開発を各ディビジョンと連携して行う。(0301-01) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン入試およびガイダンスの実施が定着した。説明会については、必要に応じてオンラインと対面を併用。国内入試のあり方については継続検討中である。(0301-01) ● 日本語能力の向上、日本文化体験プログラムの充実、および日本語サポートプログラムの実施に向けた検討を継続した。(0301-04) ● 入学者増に向けた具体的なプランを各ディビジョンで検討。今年度の管理職研修および K-12 全体研修にて内容を共有した。(0301-01) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 受験対象年齢の園児児童生徒の減少が進む中で、国内入試のあり方について、具体的に検討を進める。特に IB 入試での志願者増に向けての具案案を検討する。(0301-01) ● 母語である日本語能力の向上をめざし、具体的なプログラムの実施を図る。日本文化体験プログラムや日本語サポートプログラムの実施をめざす。(0301-04) ● 園児・児童・生徒、および、保護者の満足度の向上と志願者増を目指し、玉川の強みを活かした新規プログラムを各ディビジョンと連携して開発する。(0301-01)
	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入試広報および説明会、相談会、学校見学等については、今後もオンラインと対面のハイブリッドで継続する。海外帰国者等の受け入れについては、ローリング入試（オンライン対応含む）を軸として継続していく。さらに、学外での広報活動を強化し、新たなステークホルダーの獲得を目指す。(0301-01) ● 広報課と連携して、学園ホームページの見直しと更新を継続する。また、広報用パンフレットの写真の更新に活かせるよう、ファイルサーバの記録写真を随時整理していく。(0301-01) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校説明会や入試相談をオンラインで実施することにより、参加者層が広がってきている。(0~2 歳児保護者、他県・海外在住者など) 録画した内容を後日共有できることもメリットとして大きい。少人数ずつの体験教室や学校見学等も丁寧に継続していく。(0301-01) ● 学園ホームページの更新についてはあまり進捗がなかったが、古い内容については部分的に修正をおこなった。広報用写真の整理を随時おこなってきたことで、パンフレット作成の際に役立てることができた。(0301-01) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入試広報活動については、今後もオンライン（説明会/入試相談会）と対面（見学会/学外相談会）のハイブリッドで継続する。海外帰国者等の受け入れについては、オンライン対応含むローリング入試を軸としておこなう。さらに、学外広報活動の強化とともに SNS 利用も視野に入れ、新たなステークホルダーの獲得を目指す。(0301-01) ● 学園全体としてホームページのリニューアル計画があることが望ましいが、まずは幼稚部のサイト情報において、古い情報が混在しないよう随時更新していく。(0301-01)
	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンラインによる学校説明会を通じ広く案内すると同時に、実際に来校いただく学校見学会を充実させ、志願者増に繋げる。また、幼児教室及び近隣幼稚園での講演会の機会を増やしていく。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプの充実とともに、鹿児島久志農場でのキャンプ実施に向けて令和 7 年度より実現を目指す。(0301-01) ● 今年度の 5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムの反省を生かし、令和 7 年度の国際交流の充実を図る。(0301-04) ● 1~5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05) 	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン学校説明会による幅広い情報発信に加え、「丘めぐり体験会」や対面での学校見学会を戦略的に組み合わせることができた。その結果、玉川の強みを多角的に説明し、学校への深い理解を促すことで、新一年生の定員確保という確かな成果に繋げることができた。(0301-01) ● 従来の弟子屈サマーキャンプに加え、新たに久志でのオータムキャンプを実施した。(0301-01) ● 5 年生のオーストラリア海外交流プログラムをブラッシュアップし、より充実した活動へと発展させた。(0301-04) ● 1・2 年生における SH および ES の利用率が 7~8 割に達し、活動内容をより一層充実させることができた。(0301-05) 	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン学校説明会で広く情報を発信する一方、対面での学校見学会を充実させることで、志願者の獲得につなげる。あわせて、幼児教室や近隣幼稚園での講演機会を拡充していく。(0301-01) ● ES 弟子屈サマーキャンプと久志オータムキャンプの内容をブラッシュアップし、より充実した活動へと推進する。(0301-01) ● 5 年生のオーストラリア海外交流プログラムを刷新し、相互交流を視野に入れた国際交流のさらなる充実を図る。(0301-04) ● 1~5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05)
	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入試広報において、学園入試広報課と連携して戦略を検討する。(0301-01) ● 学校説明会、学校見学等について、時期、回数、方法など有識者の意見を伺いながら検討を続ける。(0301-01) ● 引き続き BYOD に対応したカリキュラムの検討を続ける。(0301-01) ● 海外研修の内容変更にともなった検証を行い、更に次年度につながる研修内容を検討する。(0301-04) 	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入試広報において、学園入試広報課と密に連携しながら戦略を検討し、草の根的広報活動などを積極的に実施することができた。(0301-01) ● 入試広報行事の時期や手法など有識者の助言を仰ぎながら、検討を続けることができた。(0301-01) ● ICT を活用したカリキュラムの検討を行うことができた。(0301-01) ● 海外研修の実施時期について検証・検討を行い、次年度の実施計画を立案した。(0301-04) 	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学園入試広報課と連携し、塾・中学校訪問を戦略化する。また、学内での地域参加型イベントや在校生によるキャンパスガイドなど、草の根的広報を組織的に展開して接触機会を拡大する。(0301-01) ● AI 利用のルールの再確認と活用法を整備し、個別学習を支援する授業実践を通じて「自学自律」を促す新たな学びの形を検討する。(0301-01) ● 多様なニーズに対応し、玉川ならではの教育的視点に基づいた、家族旅行では代替不可能な海外研修プログラムを開発・検討する。(0301-04)

	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● In order to improve collaboration linked to teacher's goals, the IB Division will introduce a Teacher Trios initiative for April 2025. The aim is for teachers with similar goals and needs to collaborate through lesson observations and feedback. (0301-05) <p>教員の目標に関連した協力体制を向上させるため、IB では 2025 年 4 月に「ティーチャートリオ」の取り組みを導入する。この取り組みは、共通の目標やニーズを持つ教員同士が 3 人一組となり、授業観察やフィードバックを通じて学びあうことを目的としている。(0301-05)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To work with the EP Division to create a student profile for Grade 5 students who will join the IB, with the aim of advising IB teachers on each student's strengths and areas of need. (0301-06) <p>EP と連携し、IB に進級する 5 年生の児童プロフィールを作成する。これにより、IB 教員に対して各児童の強みや改善が必要な点について、指導の参考にできることを目指している。(0301-06)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The Teacher Trio Scheme was successfully implemented with a focus on conceptual understanding. Collaboration was held throughout the year through goal setting, lesson observations and feedback. (0301-05) <p>年間通した教員研修の中に「ティーチャー・トリオ・スキーム (Teacher Trio Scheme)」を導入し、概念的理解に焦点を当てた取り組みを成功させた。年間を通じて、目標設定、授業見学およびフィードバックを行い、教員間の連携を図った。(0301-05)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We have created a student profile and are working with the EP regarding its final design and implementation. (0301-06) <p>「スチューデント・プロフィール」を作成した。現在はその最終デザインおよび導入に向けて、Primary Division EP の担当者と協議を進めている。(0301-06)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We will continue to build links with the student support services offered here at Tamagawa in terms of student observations and workshops for staff to help them better support students. (0301-01) <p>児童生徒へのより適切な支援を目的として、学内の生徒相談室をはじめとした支援部署との連携を引き続き強化する。具体的には、児童生徒の行動観察や、教職員向けの支援スキル向上ワークショップなどを実施していく。(0301-01)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We will create policy videos for parents to help them understand the workings of our Division. (0301-02,03,04,05,06) <p>IB Division の仕組みや運営方針への理解を深めるため、保護者向けのポリシー解説ビデオを作成する。(0301-02,03,04,05,06)</p>
	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ES の講座では、国際文化交流を通じて個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実されているプログラムの開発を検討する。(0301-04) ● 語彙力や読解力の定着、探究心の向上を目指し作成した MMRC 活動計画書に基づき、年齢ごとの推奨図書を選定や探究イベントについて各ディビジョンと検討する。(0301-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 6 年生以上の年齢に合わせ 芸術・文化に関する講座が協働するプロジェクト型の講座を開講した。年度末 3 月に海外提携校との交流プログラムを実施する予定である。(0301-04) ● 学校図書館 MMRC は語彙力や読解力の向上を目指し読書教育の充実を図った。各ディビジョンと協働し推薦図書リストの改定と 2026 年版「夢への扉」を作成した。(0301-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 7 年生以上対象の部活動のあり方について、生活委員会や学園教学部生活担当と検討する。(0301-01) ● 学校図書館 MMRC による読書活動と探究活動の支援事業を取りまとめた MMRC 活動計画書作成にあたり、重点事業と対象学年の設定について各ディビジョンと検討する。(0301-02)
<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 受入プログラムとして、各ディビジョンでの授業参観および授業体験の時間枠を確保し、学びと体験を深める多様な国際教育活動の計画を継続的に進める。(0301-01) ● 学内での日本文化体験プログラム運用に向け、K-12・大学・学外の教員・講師との調整と依頼を行う。(0301-01) ● 各教科や特別活動での国際教育、オンラインでの交流活動など、国内で実施可能な国際理解教育について検討し、年齢に応じたカリキュラムを模索する。(0301-04) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Primary Division および Secondary Division における授業参観・体験での交流を、双方の生徒にとって教育的メリットのある有意義な活動として実施することができた。(0301-01) ● K-16 教職員および学外講師との連携により、日本文化体験プログラムを体系的に構築し、円滑な運用を実現した。(0301-01) ● 対面交流が本格的に再開したことを受け、その対応を優先したため、オンラインプログラムの拡充については今後の継続課題となった。(0301-04) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 受入プログラムにおいて、各ディビジョンの授業参観・体験枠を戦略的に確保し、相互の学びを深める多様な国際交流活動を継続的に展開する。(0301-01) ● 学内での日本文化体験プログラムの充実を図るため、K-16・学外講師等との調整を円滑に行い、質の高い体験機会を提供する。(0301-01) ● 対面交流に加え、各教科や特別活動と連動したオンライン交流など、国内で実施可能な国際理解教育を検討し、年齢に応じた最適なカリキュラムを構築する。(0301-04)
	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念に基づき、各教科、協働学習を活用したプロジェクト型学習ができないかを検討し、児童生徒の問題解決力とコミュニケーション能力の育成を図るよう推進する。(0301-06) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念に基づき、教科横断的なプロジェクト型学習を推進した。各教科の実情に応じた協働学習の実践が展開され、生徒の問題解決力や対話力の向上に一定の成果が見られた。今後は、この取り組みを一過性のものに留めず、教育課程の中に体系的に位置づけることが課題である。(0301-06) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生成 AI の普及に伴い、言語教育および評価の方針を再考する。AI 活用の利便性と学問的誠実性を両立させるとともに、アナログによる思考や基礎学力も重視し、全人教育の理念に即した新たな学習のあり方を検討する。(0301-03,06)
	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、with コロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育、特に、宿泊行事を児童生徒の発達に即した形で実施できるように検討を重ねる。(0301-02) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 式典関係の行事について全ディビジョンで共通認識を形成し、円滑に実施することができた。また、入試広報活動においても各ディビジョンの取り組みを共有することで、志願者増に向けた施策を講じることができた。(0301-02) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、with コロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育、特に、宿泊行事を児童生徒の発達に即した形で実施できるように検討を重ねる。(0301-02) ● 入試広報活動において、各ディビジョンとの情報共有・連携を深め、志願者増に向けた効果的な施策を展開していく。(0301-01)
	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各ディビジョンで各種規程の確認をし、社会情勢等を鑑みながら年齢に応じた規程内容の検証を継続的に進める。(0301-02) ● クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針の検討を進め、クラブ体制を再構築する。(0301-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前年度より継続して、服装規程・表彰規程・懲戒規程についての協議を進めることができた。(0301-02) ● クラブ活動の在り方に関して、加入状況と活動実績、顧問・外来コーチ等の指導体制を照合し、特に関連予算の在り方や指導者数の適正規模について検証と検討を進めた。(0301-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各ディビジョンで各種規程の確認をし、社会情勢等を鑑みながら年齢に応じた規程内容の検証を継続的に進める。(0301-02) ● クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針の検討を進め、クラブ体制を再構築する。(0301-01)

<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【管理運営部門（教育情報・企画部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 総合サイト、K-12 サイトトップ、K-12 配下ページについて、「本学の理念・方針に基づいた教育実践の展開」を行えるよう、学園入試広報課とも連携し、コンテンツの充実を図る。 ● K-12 パンフレットの紙面の情報を補う形でのサイト誘導についても、充実したコンテンツ提供を行うため、学園入試広報課との連携を密にし、過不足なく展開していく。(0301-06) 	<p>【管理運営部門（教育情報・企画部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 総合サイト、K-12 サイトトップおよび K-12 配下ページについて、安定した情報提供が行えるよう適切な管理を実施した。「本学の理念・方針に基づいた教育実践の展開」を意識し、コンテンツの更新依頼に円滑に対応するとともに、K-12 に関するニュースを適時配信した。 ● K-12 パンフレットに掲載した QR コードを活用し、適切なサイトへ誘導することで、紙面情報を補完する形でのコンテンツの充実を図った。(0301-06) 	<p>【管理運営部門（教育情報・企画部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 総合サイト、K-12 サイトトップおよび K-12 配下ページについて、「本学の理念・方針に基づいた教育実践の展開」を行えるよう、学園入試広報課と連携し、コンテンツの充実を図る。 ● K-12 パンフレットの紙面情報を補完する形でのサイト誘導についても、充実したコンテンツ提供を行うため、学園入試広報課との連携を密にし、過不足なく展開していく。 ● 横断幕等を活用して K-12 の各種成果を周知しインナーブランディングの強化を図る。(0301-06)
--	---	---	--

評価規準	2025 年度の課題・重点施策	2025 年度自己評価	
		2025 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2026 年度の課題と改善方法（2026 年度の課題・重点施策）
<p>学習 (04) : 効果的な教育の保証 Learning (04) : Ensuring effective education</p> <p>規準(0401) : 一貫したカリキュラムのデザイン Standard(0401) : Designing a coherent curriculum</p> <p>0401-01 学校は、プログラムが実施される全学年にわたり、学習と指導を体系化する一貫したカリキュラムを計画し、実施すること。</p> <p>0401-02 教師は、協働して学校のプログラムをデザイン、計画、実施すること。</p> <p>0401-03 学校は、学校コミュニティーを明確に参加させるような方法でカリキュラムを開発し、定期的に見直し、共有すること。【K-16 連携を意識】</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大学との連携、及び、企業等の連携プログラムの実施に際して、そのサポートを行う事ができた。(0401-03) ● SSH の管理運営部門として、現場と協力し、SSH 活動が円滑に進められるようにサポートすることができた。(0401-01,02,03,04) ● 評価に関する検討は、今年度はあまり進んでいない。園児・児童・生徒のよりよい成長に繋がる、玉川学園ならではの評価の在り方を、新カリキュラムを見据え検討を続ける。(0404-01,02,03,04) <p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校への接続を意識して設定した年長後期「チャレンジプログラム」の更新・改善を図りつつ、活動内容の整理（活動一覧の作成）を行う。また、個性や主体性を伸ばす「自発的な遊びの時間」の環境設定について計画や振り返りを行い、「個性尊重」「自学自律」につながるよう活動の意図を深める。(0401-01,0402-06) ● 保護者が一緒に関わる活動として、MMRC、スターレックドームとの連携活動を継続する。(0401-02,03) ● 個々の成長を捉え促進するためのポートフォリオ作成に関して、教員研修を継続する。(0404-02) <p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 の連携の中で、BLES 英語カリキュラムの見直しとともに 5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの構築を目指し、継続的に英語力の向上に取り組む。(0401-01) ● 新しく用いた、Pearson Primary Benchmark テストの結果を検証し、英語力の向上に繋げられるようにする。(0401-01) ● 「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、教職員及び児童が常に意識し、日々の学習活動に取り組むようにする。(0402-02) ● 3～5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムに統計の要素を盛り込み、フィールドワークを実施し、プログラミング的思考力の育成、探究的な学習の推進を図ることを継続していく。(0403-02) ● オンライン参加が続く児童の成績評価に関しては教科毎で検討を継続することでブラッシュアップを図っていく。(0404-01,03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● HUB 部署として K-16 連携や企業連携プログラムに積極的に関与し、各ディビジョンの実施支援を行った。(0401-03) ● SSH 活動の円滑な運営に向け、情報共有と的確なサポートを実施した。(0401-01,02,03,04) ● 評価方針の検討は全体としては進展していない。新学習指導要領を注視しつつ、園児・児童・生徒の成長につながる評価方法の検討を継続する(0404-01,02,03,04) <p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年長後期の接続プログラムについては、概ね年間計画（活動一覧）の通りに実施することができ、年長園児の意欲や興味関心、主体的な学習態度につながることができた。「自発的な遊びの時間」についても、各担任によって様々な環境づくりや活動の振り返りが見られたが、学年をこえて活動内容を共有する場が不足しがちであった。(0401-01,0402-06) ● 保護者が一緒に参加する活動として、プラネタリウム鑑賞会、農作物の収穫、ぬいぐるみお泊まり会といった活動を他部署と連携して実施した。(0401-02,03) ● 教育学部乳幼児発達学科の岩田先生のもとで研修会を開催し、ドキュメンテーション、ポートフォリオ作成に関する教員研修をおこなった。(0404-02) <p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教務主任のリードのもと、BLES と ELF の教員が連携。研修や定期会議を重ねることで、カリキュラムをより洗練されたものへとブラッシュアップできた。(0401-01) ● Pearson Primary Benchmark テストの結果分析に基づき、最適な英語指導の実践に努めた。(0401-01) ● 学期ごとに児童自らが玉川っ子の目標に基づいた個人目標を設定し、日々の生活で意識できるよう指導した。(0402-02) ● 4 年生で統計的要素を導入し、「学びの技」として実践している調べ学習および探究学習のさらなる充実を図った。また、プログラミング的思考の育成として、1・2 年生の全クラスでキューベットロボットを用いた学習を計画通り実施できた。(0403-02) ● 継続的なオンライン授業参加児童はいなかったが、教務主任・担任・教科担当による連携ミーティングを適宜行い、各児童へ迅速かつ適切な対応をとることができた。(0404-01,03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● HUB 部署として、大学・企業・自治体等との連携プログラム実施に際し、円滑な運用をサポートする。(0401-03) ● SSH の管理運営部門として、現場と協力し、SSH 活動が円滑に進められるようにサポートする。(0401-01,02,03,04) ● K-12 全体の評価方針を継続検討する。次期学習指導要領の動向を注視し、園児・児童・生徒のよりよい成長に資する評価方法を追求する。(0404-01,02,03,04) <p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年長後期の接続プログラムについては、幼稚部としての充実を図っているが、そうした活動を経て進学した 1 年生にどのような有効性が見られるのかなど、検証の仕方について Primary と連携して考えていく。 ● また「自発的な遊びの時間」の環境設定や園児の姿について、学年をこえて継続的に共有する場や方法を探り実施していく。(0401-01,0402-06) ● 保護者が一緒に関わる活動として、MMRC、スターレックドームとの連携活動を継続する。(0401-02,03) ● 個々の成長を捉え促進するためのドキュメンテーション、ポートフォリオ作成に関する教員研修を継続する。(0404-02) <p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育研究センターと連携し、具体的な施策を策定・実施することで、自校教育のさらなる充実を目指す。(0402-02,03) ● スクールカウンセラーと連携して、心の健康づくり、健全な人間関係の構築、他者理解などを目的とした心の授業を全学年行い、心身の健やかな成長を育む。(0402-03,05) ● TAP スタッフと連携し、夏季教員研修の実施や、全人教育を基盤とした学級づくりの施策を推進する。(0402-03,05) ● 留学生の受け入れ促進と 5 年生の海外研修の充実にも努め、玉川の国際教育をさらなる高みへと引き上げる。(0402-02) ● 「自然の尊重」と「労作教育」を深めるため、農学部および総務部管財課との学内連携をさらに強化していく。(0402-02) ● 統計の要素を取り入れた学習をフィールドワークへと繋げ、「学びの技」における探究型学習をより一層進化させる。(0403-02)

<p>規準(0402)：生涯学習者としての生徒 Standard(0402)：Students as lifelong learners</p> <p>0402-01 生徒は、活発に思考、研究し、コミュニケーションをとり、社会的、および自己管理のスキルを発達させること。</p> <p>0402-02 生徒は、「教育の12信条」「IBの学習者像」の人物像に沿った継続的な発展を実証し、振り返りを行うこと。</p> <p>0402-03 生徒は、健全な人間関係、責任の共有および効果的に協働することの大切さについて理解し、発展させること。</p> <p>0402-04 生徒は、情報、論理、および倫理に基づいて判断を行う能力を向上させること。</p> <p>0402-05 生徒は、より広いコミュニティと社会全般に肯定的な変化をもたらすのに必要な柔軟性、忍耐力、および自信を育むこと。</p> <p>0402-06 生徒は、チャレンジに満ちた目標を設定し、独自の探究を突き詰めることで、自身の学習に責任をもって取り組むこと。</p> <p>0402-07 生徒は、個人的な、また文化的なアイデンティティを模索し、発展させる機会を追求すること。</p>	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報に関して、一貫的なプログラムになっているか検討し、構築する。(0401-01) ● 引き続き、町田市との地域貢献や地域連携の活動を実施する。(0402-01,05) ● 自由研究の更なる活性化の方法を模索する。(0403-01,03) ● 玉川学園 K-12 生徒相談室と連携して、心の健康づくり、健全な人間関係の構築、他社理解などを目的とした心の授業を各学年行い、心身の健やかな成長を育む。(0402-03,05) 	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報科目において、縦につながるカリキュラムを意識した授業実践を行った。(0401-01) ● 町田市との地域貢献や地域連携の活動を実施することで、生徒の社会参画意識の向上を図ることができた。(0402-01,05) ● 自由研究の活性化に向け、玉川学園展での展示・発表形式を改善・充実させることで、探究成果の発信力を強化した。(0403-01,03) ● 玉川学園 K-12 生徒相談室と連携して、状況に応じて心の授業を行うことができた。(0402-03,05) 	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 進化する ICT 技術を柔軟に選択・導入し、生徒が主体的に技術を習得できる独自性のあるカリキュラムの検討を行う。(0401-01) ● 町田市との活動を継続しつつ、他自治体との包括連携協定を活かした新たな連携の形を模索し、本学園ならではの特色ある地域貢献と学びの場を創出・検討する。(0402-01,05) ● 自由研究において、客観的根拠に基づく論理的な説明力を養い、探究プロセスを可視化する展示・発表形式を追求する。発信力の向上を通じて、研究内容の深化を図る。(0403-01,03) ● 引き続き、玉川学園 K-12 生徒相談室と連携して、心の健康づくり、健全な人間関係の構築、他者理解などを目的とした心の授業を各学年行い、心身の健やかな成長を育む。(0402-03,05)
<p>規準(0403)：指導のアプローチ Standard(0403)：Approaches to teaching</p> <p>0403-01 教師は、生徒の自然な好奇心を培うために、探究・行動・振り返りを用いること。</p> <p>0403-02 教師は、生徒の思考力を高めるために概念理解の学習に重点を置くこと。</p> <p>0403-03 教師は、カリキュラムの関連性(教科横断、学年縦断)をもたせるために、地域およびグローバルな文脈を用いること。</p> <p>0403-04 教師は、肯定感があり、躍動感のある学習環境を創造するために、効果的な人間関係の構築と意義のある協働を促進すること。</p> <p>0403-05 教師は、生徒一人ひとりのがりがいのある独自の学習目標を立て、それを追求し達成できるように学習への障壁を取り除くこと。</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To create a sustainable yearly calendar for the Diploma Programme ensuring a balance between the needs of the curriculum and the students' work life balance. The calendar will be used as a basis for future year groups. (0403-05) <p>DP のために、カリキュラムのニーズと生徒のワークライフバランスの両立を考慮した、持続可能な年間計画を作成する。この計画は、今後の年間計画の基本として引き継いでいく。(0403-05)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To work with the IB networks to create training days that incorporate staff from other IB schools in Japan. (0403-03,04) <p>IB 校ネットワークと連携し、日本の他の IB 校の教員との合同研修を計画する。(0403-03,04)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To work with staff to merge assessment criteria with the aim of reducing the number of assessments per term. To continue to strengthen the assessment policy to ensure.. (0404-01,02,04) <p>評価基準の統合に取り組み、学期ごとの評価課題(アセスメント)を減らすことを目指す。また、アセスメントポリシーを引き続き強化し、確実に効果的な評価が行われるようにする。(0404-01,02,04)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To employ and train EAL teaching assistants to ensure extra support for students inside and outside of the classroom. (0403-05) <p>EAL (英語学習支援)ティーチングアシスタントを雇用および養成し、授業内外での児童生徒へのきめ細やかなサポートを提供する。(0403-05)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We have worked hard to meet this aim. We have taken Music, Design and PE out of the IB in years 4 and 5 of the MYP to cut classes and assessments and we will put IB Core onto a carousel so that Grade 10 do not have period 8. (0403-05) <p>この目標を達成するため、多大な尽力を行ってきた。それにより次年度 MYP 4・5 年次において、授業数およびアセスメント(評価課題)を削減するため、音楽、技術家庭、保健体育を IB の枠組みから外した。また、IB Core を年間通してカルーセル方式に組み込むことで、10 年生の 8 時間目を廃止する。(0403-05)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We had training from two leaders from other schools in Japan which was very successful. (0403-03,04) <p>教員研修日に国内の学校から 2 名のリーダーを招いて研修を実施し、非常に大きな成果を収めた。(0403-03,04)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Subject Leaders have worked hard to merge assessment criteria. Good progress has been made here. (0404-01,02,04) <p>教科主任の尽力により、評価基準の統合が進み、この点において大きな進展が見られた。(0404-01,02,04)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● We employed our first EAL teaching assistant and are expanding to two workers from April 2026. (0403-05) <p>初の EAL 指導助手を雇用した。2026 年 4 月からは 2 名体制へと拡大する予定である。(0403-05)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To work with all departments to review the practices for formative assessment to ensure that they are consistently designed to enable students to improve their skills across the programme. (0404-03) <p>全教科(デパートメント)と連携し、形成的評価(formative assessment)の実施方法を見直す。これにより、プログラム全体を通じて、児童生徒が着実にスキルを向上させられるよう一貫性のある設計を徹底する。(0404-03)</p>
	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1～5 年生対象の SH では、SH 教員の指導内容や教材のあり方、きめ細かな指導が可能となる学習環境づくりについて検討をする。(0401-02) ● 生涯にわたり学び続ける基盤として読書教育の充実を図るため、MMRC が拠点となり学校図書館における学習カリキュラムについて検討を開始する。(0403-03) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SH に参加する児童については、その日の目的・目標を明確にした上で SH に臨むよう事前指導を行なった。また、SH の時間帯は落ち着いて安心して過ごせるよう、教室内の雰囲気等の学習環境づくりに注意を払った。(0401-02) ● 園児・児童・生徒にとって良質な読書活動が定着するよう、学齢に合わせた支援事業カリキュラムの作成をすすめた。(0403-03) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外在住家庭向けの学習支援について、その内容と方法を検討する。(0401-01) ● 児童の自然な好奇心を培い、論理的思考力や情報活用能力を育む探究活動実践の場を提供することを目的として、教科横断による支援授業カリキュラムの開発を検討する。(0402-04,0403-01,03)
	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-16 の一貫性のある国際教育プログラムの検討を継続的に行う。(0401-01) ● 大学・K-12 の国際担当と連携を深め、各学部・各ディビジョンでの国際教育プログラム計画を確認し、事前準備等のサポート体制を整える。(0401-04) ● 海外研修、留学プログラムに参加した生徒を対象としたアンケート調査を継続実施し、プログラムの改善に繋げていく。(0402,0404) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-16 間の定期的な情報共有を定着させた。海外の大学生を対象とした受入れプログラムの構築に際しては、長年にわたり培ってきた K-12 のノウハウを共有することができた。(0401-01) ● 定例会議を通じ、大学側との情報共有を強化し、学園全体での国際教育の方向性を確認した。(401-04) ● 研修後のアンケートや、研修報告会等を通して、プログラムを振り返り、改善に繋げるよう努めた。(0402,0404) 	<p>【国際教育センター副センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 一貫性のある国際交流プログラムを追求し、玉川ならではの独自性と魅力にあふれるプログラムの構築を目指す。(0401-01) ● 海外研修・留学プログラム参加後の生徒アンケートを継続し、その分析結果をプログラムの改善に直接反映させる体制を強化する。(0402,0404) ● 研修報告会の実施方法を工夫し、参加生徒の学びの成果をより多くの生徒へ還元し、学園全体の国際意識を高める仕組みを模索する。(0402, 0404)

学習 (04) : 効果的な教育の保証 Learning (04) : Ensuring effective education	【教務委員長】 ● K-16、地域との連携したカリキュラムをさらに発展できるよう検討を行う。(0401-01,02,03) ● 児童・生徒の興味・関心や学習進度に応じた柔軟な学習環境の整備し、個に応じた学びがどのようにできるか、指導・支援体制を検討する (0403-01,05)	【教務委員長】 ● 大学や地域、企業との連携を模索し、実社会と結びついた充実した実践を展開できた。各機関との調整を通じて、教育課程の多様化と拡充を図ることができた。((0401-01,02,03) ● 生徒の興味や進度に応じた指導体制を検討し、ICT を活用した環境整備を推進した。個別支援のあり方について教職員の共通理解が進み、体制構築に向けた一定の成果を得た。(0401-03)	【教務委員長】 ● ICT ポートフォリオとキャリアパスポートを統合し、生徒が学びの振り返りを通じて将来のロードマップを自ら設計できるような、新たな指導体制のあり方を検討する。(0401-01,02,03,06) ● K-12 一貫教育の質を向上するため、時程や教育課程を再検討し、教科横断的な探究や多角的な評価を柔軟に実施できる新たな学校運営の枠組みを検討する。(0401-01. 0403-03)
	【生活委員長】 ● 「心の教育」として礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、学齢に応じた運用と形態の検討を継続して進める。(0401-01) ● ICT を活用した教育活動を積極的に取り入れる事により発生する様々な課題を検証し、それらの対応について検討を進める。(0401-03)	【生活委員長】 ● 「心の教育」として礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、学齢に応じた運用と形態の継続検討を進めた。(0401-01) ● 児童・生徒が使用している奨励機種の妥当性を継続的に検証するとともに、様々な ICT 機種の学校での利活用について協議を進めた。(0401-03)	【生活委員長】 ● 「心の教育」として礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、学齢に応じた運用と形態の検討を継続して進める。(0401-01) ● ICT を活用した教育活動を積極的に取り入れる事により発生する様々な課題を検証し、それらの対応について検討を進める。(0401-03)